

舗装のクラック修理・新工法試験施工

第9回追跡調査報告書（5ヶ年調査）

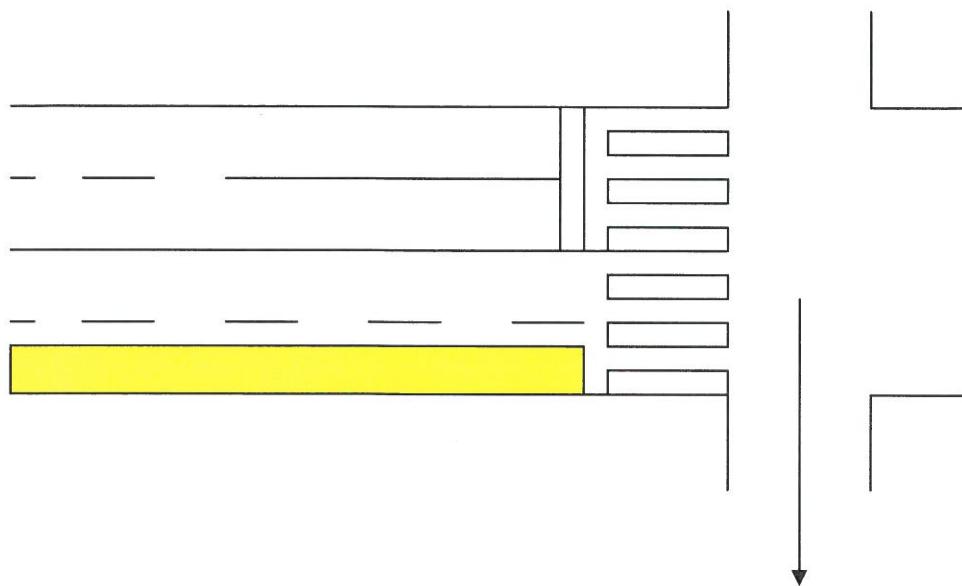
以下に試験施工の結果をご報告申し上げます。

1. 調査日時

平成22年4月11日(日) 14時分

2. 調査場所

府道38号(泉北北環状線)晴美台2丁目付近



晴美台2丁目交差点

* 黄色部分をそれぞれ施工する

- 路肩部サイドジョイントシーリング
- 舗装目地クラックのクラックシーリング
- 舗装劣化によるクラックのクラックシーリングとフィーリング

3. 試験施工内容

- A) 路肩部のコンクリートとアスファルトのジョイント部分におけるジョイントシーリング
- B) アスファルトにおけるクラック部分のクラックシーリング（A工法）
- C) アスファルトにおけるクラック部分のバンドエイド型クラックシーリング（B工法）を中心に行います。

4. まとめ

5カ年後の追跡調査を行ないましたが良好な状態を保ち推移しています。5年を経過して以下の点を点検チェックいたしました。

1. 新たなひび割れの有無

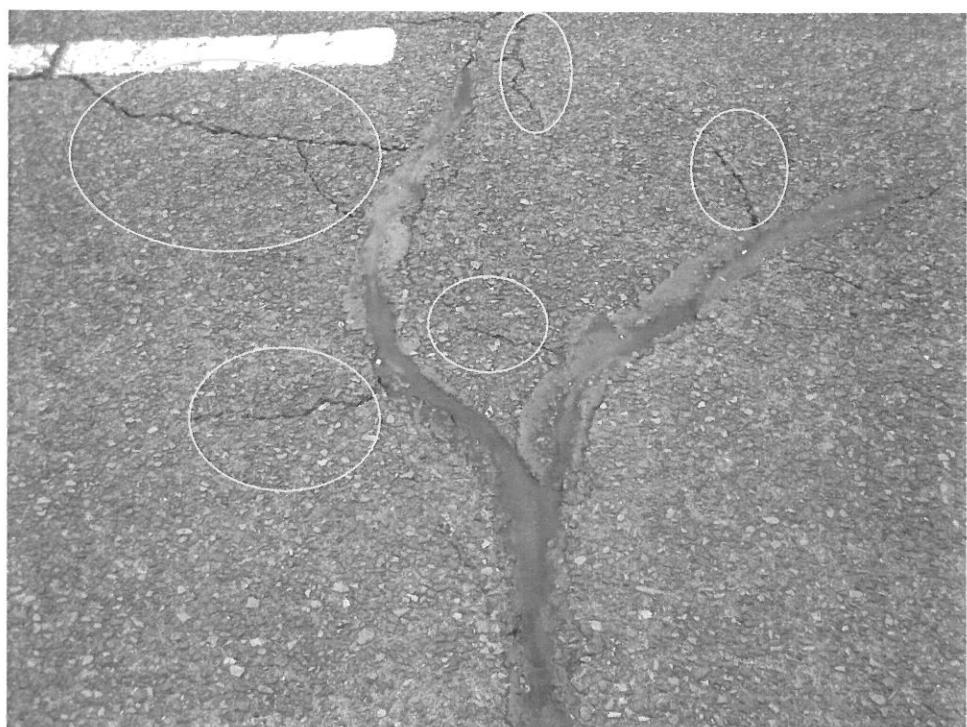
5年目を迎えて今までクラックシール付近にもひび割れが写真のように発生し始めていることが確認できた。

2. シール部分のはがれやクラックの発生

シール部分でのはがれやヒビ割れの発生がないことが確認できた

3. その他の変化

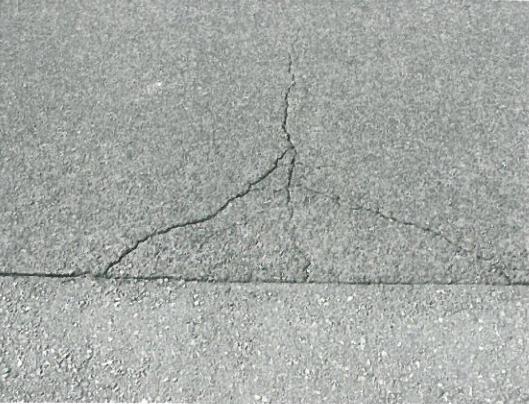
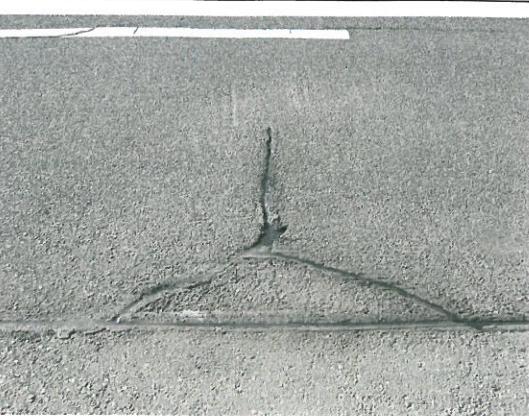
クラックカットシールに隣接する舗装面ではひび割れ状態が進行することも確認できた（写真を参照）。（円内を参照。）

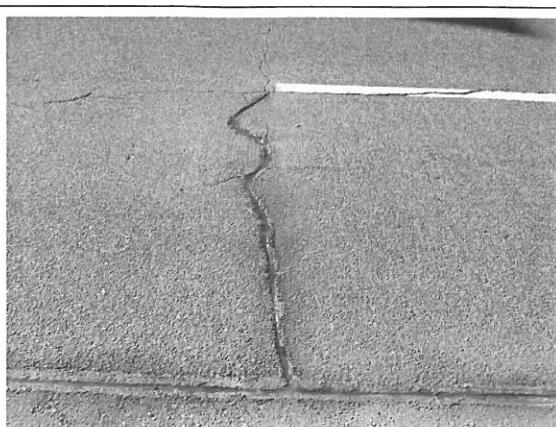
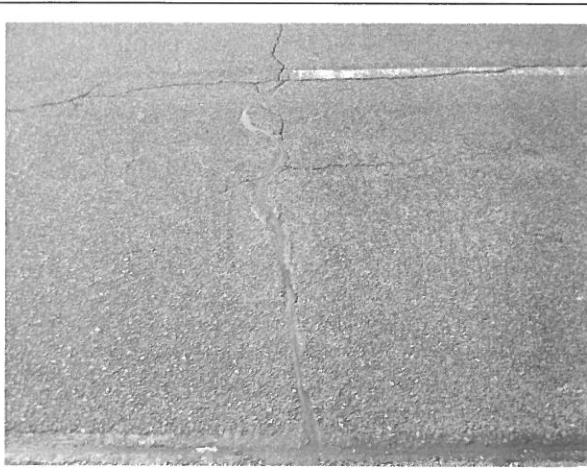


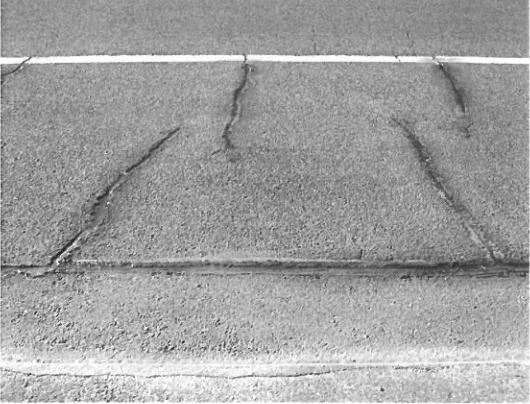
これらのことから判断すると、5年間の舗装の延命化は果たせたと解釈できる。現状の路面に新たに発生したひび割れをシールする時期に来たものと推定できる。出来るだけ早期にクラックカットシールが舗装の寿命をさらに延長する為有効である。

以上

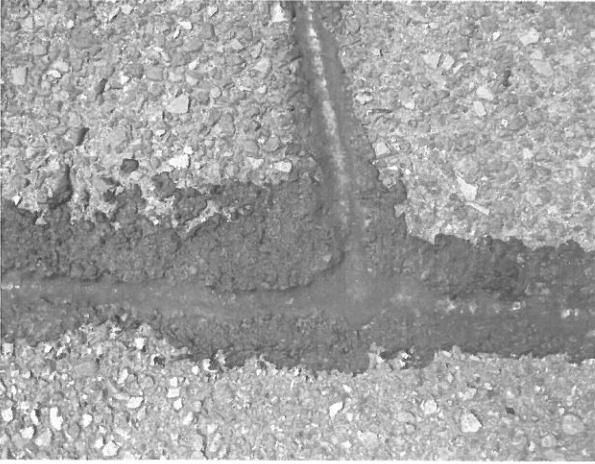
<調査結果>

施工前	 <p>1. 施工前の道路状況 (右側車線の部分を施工)</p>	 <p>2. クラックの様子 施工前</p>
施工直後	 <p>施工後の道路状況</p>	 <p>形状に追随する仕上がり</p>
1年後	 <p>変化無し</p>	 <p>変化無し</p>
5年後	 <p>変化無し</p>	

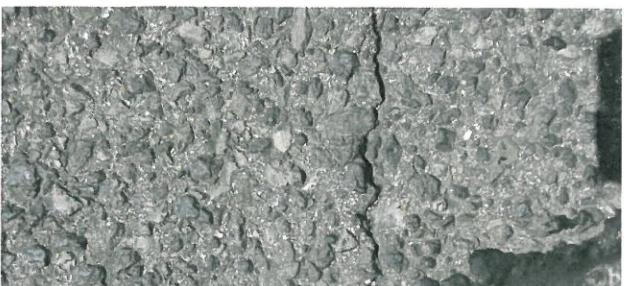
施工前		
	3. クラックの様子	4. クラックの様子
施工直後		
	完成	完成
1年後		
	変化無し	変化無し
5年後		

施工前	 5. クラックの様子	 6. クラックの様子
施工直後	 完成	 完成
1年後	 変化無し	 変化無し
5年後		

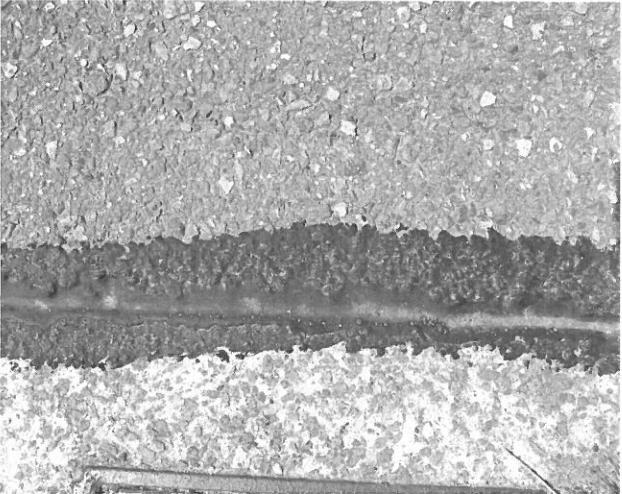
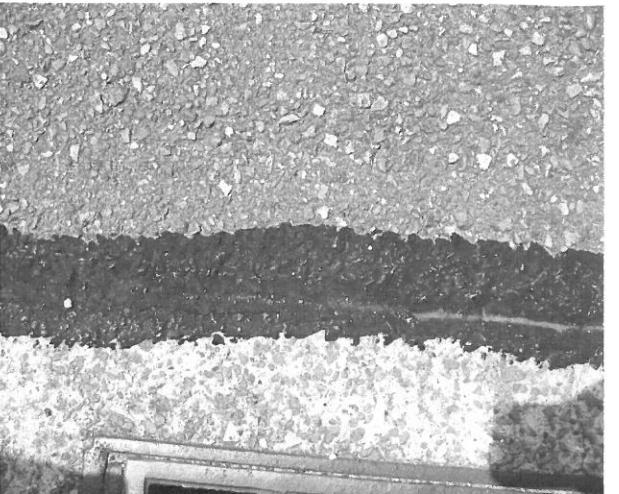
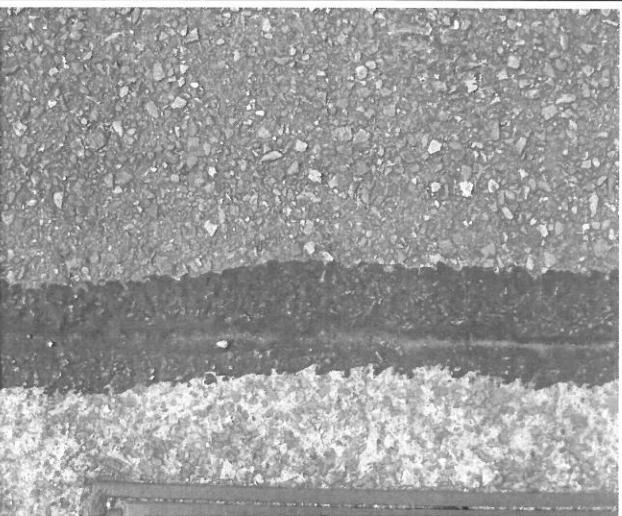
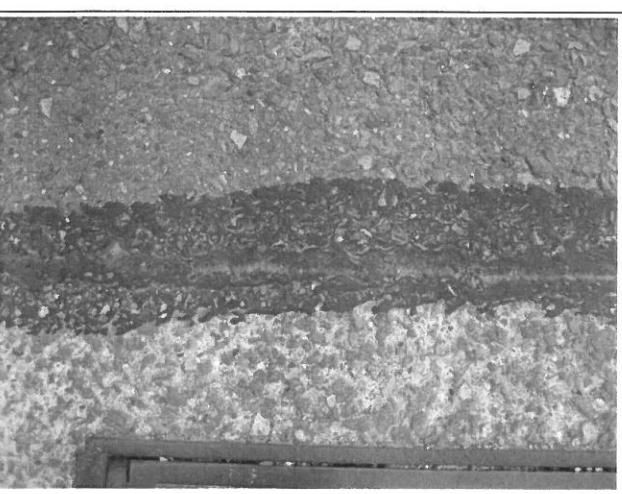
拡大されたシール部分の経時変化

1ヶ月後	6ヶ月後
	
12ヶ月後	2年後
	
3年後	5年後
	

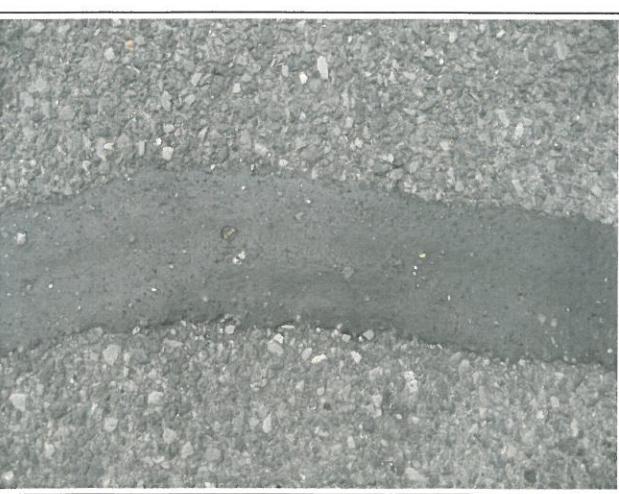
拡大されたシール部分の経時変化

1ヶ月後	6ヶ月後
 	 
12ヶ月後	2年後
 	 
3年後	5年後
 	 

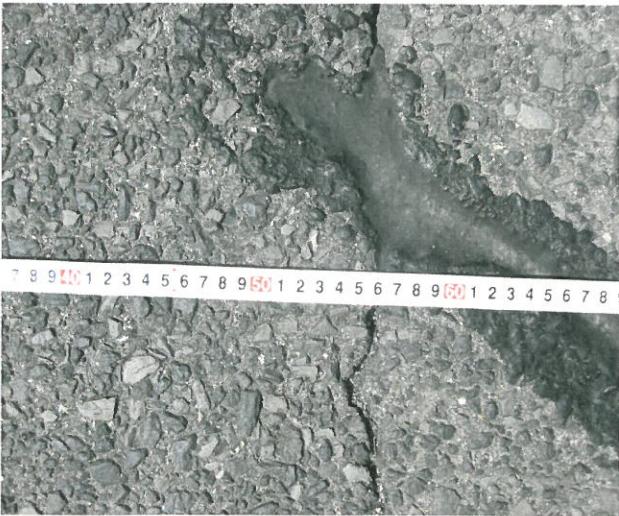
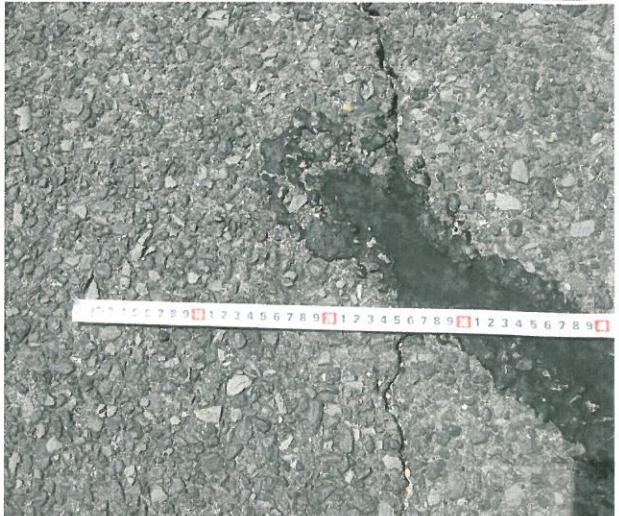
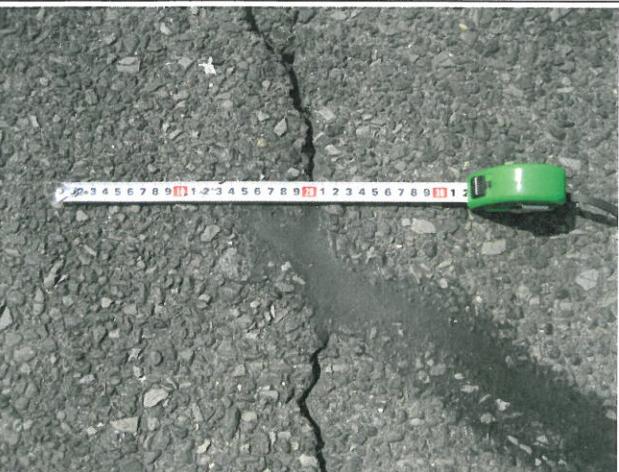
拡大されたシール部分の経時変化

1ヶ月後	6ヶ月後
	
12ヶ月後	2カ年後
	
3年後	5年後
	

拡大されたシール部分の経時変化

1ヶ月後	6ヶ月後
	
12ヶ月後	2年後
	
3年後	5年後
	

拡大されたシール部分の経時変化

1ヶ月後	6ヶ月後
	
12ヶ月後	2カ年後
	
3年後	5年後
	



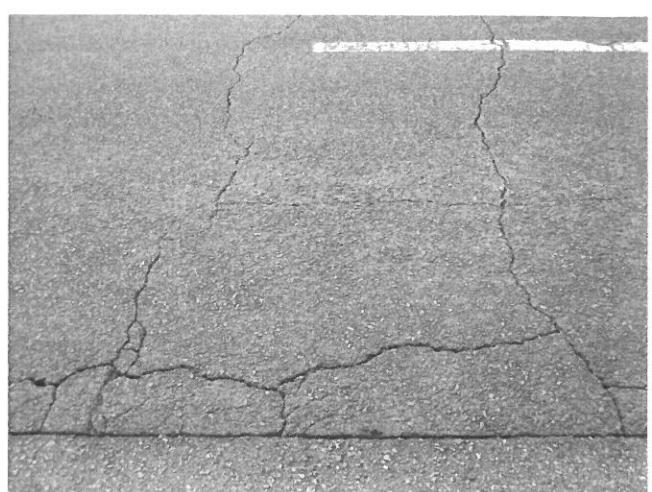
同路線における隣接する路面状況① (3年後)



5年後の様子



同路線における隣接する路面状況② (3年後)



5年後の様子



同路線における隣接する路面状況③ (3年後)



5年後の様子 (7.7mmにひび割れが拡大)